

平成 23 年度事業報告

平成 23 年 3 月 1 日から平成 24 年 2 月 29 日までの事業報告

1 会員状況

1.1 法人会員および団体会員

級 種	平成 23 年度末	平成 22 年度末	増 減
1 級	11 社	11 社	0 社
2 級	6 社	6 社	0 社
3 級	20 社	20 社	0 社
4 級	32 社	34 社	-2 社
5 級	73 社	75 社	-2 社
計	142 社	146 社	-4 社

1.2 個人会員

種 別	平成 23 年度末	平成 22 年度末	増 減
正会員	1197 名	1194 名	3 名 *
永年会員	49 名	114 名	-65 名 *
名誉会員	12 名	13 名	-1 名
学生会員	49 名	103 名	-54 名
計	1307 名	1424 名	-117 名

* 定款の変更により、(旧)永年会員から正会員に変更になった方：54名

1.3 名誉会員（12名）

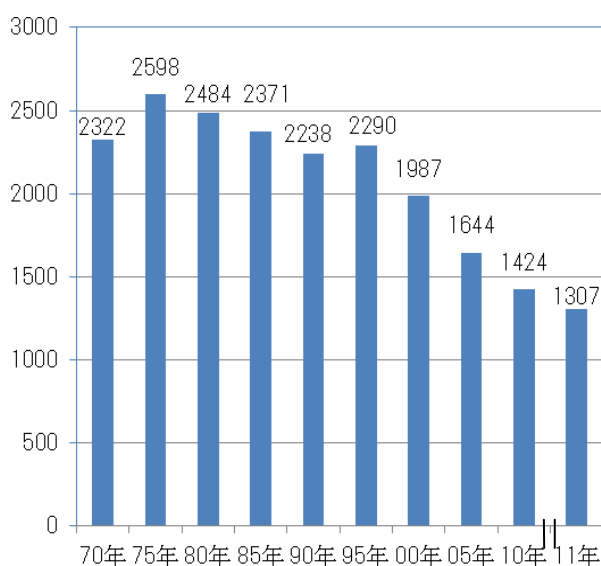
阿河 利男 池田 功 伊藤 俊洋 大城 芳樹 大場 健吉 荻野 圭三
北原 文雄 田嶋 和夫 常盤 文克 二木 鋭雄 橋本哲太郎 早野 茂夫

1.4 日本油化学会フェロー（6名）

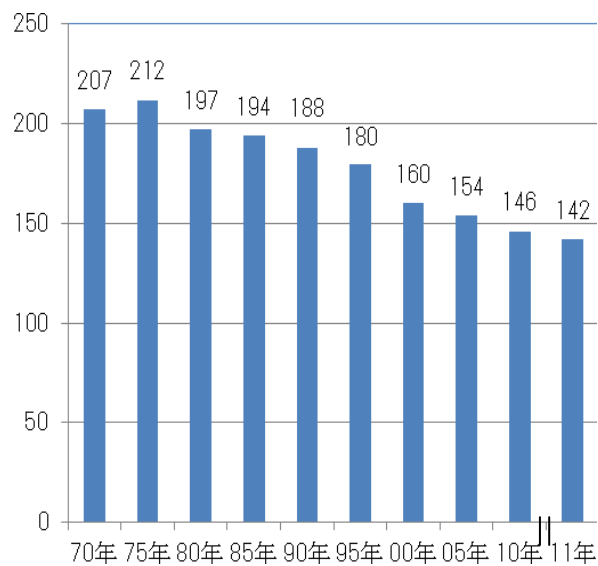
菊川 清見 佐藤 清隆 菅野 道廣 妹尾 学 戸谷洋一郎 Ching T. Hou

1.5 会員数の推移（個人・法人）

個人会員数の推移



法人会員数の推移



2 会務

2.1 総会

第 57 回定時総会を、平成 23 年 4 月 29 日、日本大学駿河台校舎で開催した。委任状提出者、書面による表決者を含めて 939 名の社員の出席を得て議案を審議した。平成 22 年度事業報告および決算案、定款の一部変更の案、ならびに諸規則類の制定・改定案等が審議され、いずれも原案通り承認・可決された。また、23 年度役員を選任が行われた。

ひきつづき、表彰式が行われ、つぎの各氏が推戴・表彰された。

- ① 日本油化学会フェローに、広島大学名誉教授 佐藤 清隆 氏が推戴された。
同じく本会フェローに、アメリカ合衆国農務省 Dr. Ching T. Hou 氏が推戴された。
- ② 日本油化学会功績賞が、元・東海支部長 荒木 芳彦 氏に贈呈された。
- ③ 平成 22 年度日本油化学会学会賞および進歩賞が次の各氏に贈呈された。
 - ・学会賞 近畿大学工学部 宮澤 三雄 氏
 - ・進歩賞 弘前大学大学院理工学研究科 鷺坂 将伸 氏
- ④ 日本油化学会女性科学者奨励賞が、東京理科大学薬学部 牧野 公子 氏に贈呈された。
同じく本会女性科学者奨励賞が、曾田香料株式会社 兼井 典子 氏に贈呈された。

総会に関するすべての行事が終了した後、隣室で懇親会が開催され、60 余名が出席した。

2.2 理事会

定例理事会は 5 回開催し、平成 22 年度決算案の承認、平成 23 年度会長、副会長および常務理事の選定、運営委員長、各業務委員長、各支部長、各専門部会長等の選任、日本油化学会名誉会員、フェロー、功績賞、女性科学者奨励賞および日本油化学会学会賞等の選考、平成 25 年度(第 52 回)年会開催地の決定および実行委員長の選任、代議員制の再採用を目指した定款の変更の案等、重要案件について審議し、決議した。また、臨時の理事会を 2 回開催し、東日本大震災を受け、第 50 回年会と WCOS 開催を平成 24 年度に延期する等の案件を審議し、決議した。[出席理事 延 63 名、出席監事 延 14 名。別に、定款第 34 条に基づく決議(書面による審議と同意)を 2 回実施。]

2.3 運営委員会および業務委員会等開催状況

運営委員会を 5 回、支部長連絡会を 2 回開催した。なお各業務委員会等の開催数は次のとおりである。

総務委員会	4 回	財務委員会	1 回
企画・部会統括委員会	3 回	規格試験法委員会(含小委員会)	5 回
企画・部会統括委員会全体会議	2 回	基準油脂分析試験法改訂 WG	15 回
役員等候補者推薦委員会	2 回	学会賞等選考委員会	2 回
編集委員会	6 回	功績賞等推薦委員会	2 回
若手の会委員会	1 回	マスターズクラブ幹事会	7 回
60 周年記念誌出版委員会	1 回	オレオサイエンスフェア委員会	11 回
WCOS2012 委員会	5 回		

運営委員会は、アジア地区の油化学の発展を目指し、アジア油化学会議(仮称)の開催を理事会に上程した。総務委員会は、代議員制を再度採用する定款の変更の案を理事会に上程した。財務委員会は、社団法人日本油化学会として最後の決算(平成 22 年度決算)案を理事会に上程した。さらに公益社団法人移行に伴い、新しい公益法人会計基準に適合させるべく会計処理の変更と財務の整理を進め、平成 24 年度予算書を理事会に上程し、また平成 23 年度決算書(案)を作成した。理事会は、アジア油化学会議(仮称)を開催すること(開催予定：平成 26 年 9 月)、定款の変更の案、等を承認・決議した。

企画・部会統括委員会は、アドバンスセミナーを企画・開催した。規格試験法委員会は『基準油脂分析試験法』改訂のため WG を精力的に開催し、改訂作業を進めた。また、創立 60 周年記念事業として予定されている、『60 周年記念誌』出版、『オレオサイエンスフェア』開催等の準備を各委員会が推進した。

3 事業報告

3.1 研究成果の公開，人材教育，研究の奨励及び業績の表彰を行う事業（公1）

3.1.1 研究成果の公開

3.1.1.1 フレッシュマンサミット（TOKYO, OSAKA）

東日本大震災の影響受け，World Congress on Oleo Science & 29th ISF (WCOS 2011)が平成24年度開催に延期され，併せて第50回年会も平成24年度開催に延期された。その結果，本会が主催する研究発表の場がなくなることになるため，急遽，学生ならびに若手研究者を対象とした研究発表会を，東京，大阪の2会場で開催することが理事会で決定，開催された。概要は以下のとおりである。

(1) 日本油化学会フレッシュマンサミット TOKYO 2011

酒井秀樹実行委員長を中心に実行委員会を組織し，準備及び運営を行った。特別講演は，ライオン(株)岡野知道氏・小林知佳氏，岩橋槇夫北里大学名誉教授，島崎弘幸人間総合科学大学客員教授により行われた。一般講演は，「界面科学」と「油脂，バイオテクノロジー，分析化学，環境」の2会場で行われた。実行委員会は，学生奨励賞に5名を選考し，授賞した。

期 日：平成23年10月11日(火)～12日(水)

会 場：東京理科大学森戸記念館

内 容：① 参加者総数 120 名
② 講演件数・特別講演 3 件
・一般講演（口頭発表） 39 件
・油脂工業会館油脂優秀論文賞受賞講演 10 件
③ 懇親会 10月11日(火) 18:00～20:00

(2) 日本油化学会フレッシュマンサミット OSAKA 2011

宮澤三雄実行委員長を中心に実行委員会を組織し，準備及び運営を行った。特別講演は，サントリーホールディングス(株)永井元氏により行われた。一般講演は，2会場で行われた。実行委員会は，学生奨励賞に5名を選考し，授賞した。

期 日：平成23年11月5日(土)

会 場：近畿大学本部キャンパス

内 容：① 参加者総数 134 名
② 講演件数・特別講演 1 件
・一般講演（口頭発表） 38 件
③ 懇親会 11月5日(土) 17:00～19:00

3.1.1.2 日本油化学会誌（論文誌・会員誌）の発行

(1) 「Journal of Oleo Science」誌 第60巻 第1号～12号 総ページ数 666 ページ

論文誌として，冊子版と電子版を発行しており，第60巻は原著論文88件を掲載した。また，ページ外で，投稿規定，入会案内等を掲載した。なお，Thomson Reuters社より，2010 Impact Factor 値が公開され，1.094であった。

掲載内容	報文	63 件
	ノート・速報	22 件
	総説	3 件

(2) 「オレオサイエンス」誌 第11巻 第1号～12号 総ページ数 512 ページ

特集9件および総説3件を企画したほか，引続き「解説・ここが知りたい！」を企画してホットでわかりやすい情報を12件掲載した。また，巻頭言，表彰，会務，学会情報，研究室紹介，Q&Aなど会員に役立つ情報を中心とした会員向けの情報誌として編集した。ページ外で，会告，目次等を，372 ページ編集した。

掲載内容	特集総説・単報総説	36 件
	解説・ここが知りたい!	12 件
	研究文献抄録	188 件
	国際油脂情報	122 件
	その他 (巻頭言, 表彰, 会員のひろばなど)	

3.1.2 人材教育

本部主催の人材育成事業は、企画・部会統括委員会を中心に企画・実施し、フレッシュマンセミナー(油脂)、フレッシュマンセミナー(界面)、アドバンスセミナー(油脂)、アドバンスセミナー(界面)の4件を行った。フレッシュマンセミナーのテキストには2009年3月に改訂・刊行した日本油化学会編纂の教本「油脂・脂質の基礎と応用(改訂第2版)」および「界面と界面活性剤(改訂第2版)」を使用した。参加者数は延216名であった。なお、平成23年度は、東日本大震災被災の児童生徒の学習を支援する目的で、本会より1,000,000円を支援金として寄附を行った。被害が大きかった、岩手、福島、宮城の3県を対象とした。人材教育の一環として位置付け、実施した。

若手の会委員会は、8月にサマースクールとして講演会を開催した。また、マスターズクラブは、通常の講演会に加え、専門部会のオレオライフサイエンス部会と共同で、「どう理解する：トランス脂肪酸と健康」を刊行し、本会からの提言を行うと同時に、講演会を開催し、情報発信を行った。

3.1.3 研究の奨励・業績の表彰

本会では、油脂・脂質、界面活性剤及び関連分野の科学・技術の進歩を奨励すると共に、著しい成果をあげた研究者を表彰している。平成22年度の主な受賞者を、本報告の会務・総会の項で紹介した。平成23年度も、若手の研究者を奨励するための日本油化学会進歩賞、学生奨励賞の授与者を選考した。また、研究成果を表彰するため、日本油化学会学会賞、エディター賞、オレオサイエンス賞、ベストオーサー賞等授与者を選考した。また本会に貢献した会員として功績賞授与者の選考も実施した。第58回定時総会の席上等で表彰する。

3.2 評価・試験法の標準化と普及を行う事業(公2)

油脂および油脂製品の研究や品質管理等におけるデータの利用については、統一された試験法により得られたデータであることが強く求められている。その基準となる分析試験法として『基準油脂分析試験法』を刊行しているが、平成23年度は、平成24年に予定している改訂に向けてWGを精力的に開催(15回)し、改訂作業を進めた。また、品質管理や研究開発を担う技術系職員及び学生の一般知識の向上と評価・試験技能の向上を目的として、10月に第9回界面活性剤評価・試験法セミナー、11月に第11回基準油脂分析試験法セミナーを開催し、日本油化学会が制定した試験法の普及を図った。セミナー参加者は延78名であった。

3.3 地域における学術の振興と普及を行う事業(公3)

各支部による講演会・セミナー等を、例年に倣い開催した。また、各支部主催の講演会・セミナーの企画を充実させるため、幹事会等を下記のとおり開催した。

[支部委員会等の開催]

- ・関東支部 常任幹事会3回、幹事会1回、事業企画委員会3回
- ・東海支部 常任幹事会3回、支部合同幹事会1回、支部将来計画委員会1回
- ・関西支部 常任委員会4回、合同会議3回

[支部の行事開催]

各支部による講演会、セミナー等の行事は、延12回開催し、参加者数は延628名を数えた。ご出講いただいた講師の先生方は延42名であった。

- ・関東支部 開催回数 3回 参加者数 194名
- ・東海支部 開催回数 4回 参加者数 172名

・関西支部 開催回数 5回 参加者数 262名

このうち、(財)油脂工業会館共催の地区講演会は、9月に厚木市(関東支部)、11月に高知市(関西支部)、静岡市(東海支部)、12月に高松市(関西支部)の4ヶ所で開催した。油化学の視点から市民を対象とした啓発活動を行い、地域における学術振興・普及に努めた。

3.4 学術専門分野の活性化事業(公4)

専門部会活動については、前年同様、オレオマテリアル部会、界面科学部会、洗浄・洗剤部会、オレオライフサイエンス部会、油脂産業技術部会、オレオナノサイエンス部会および食品油脂機能構造部会の7部会体制で展開し、それぞれの専門分野を深耕した。講演会、セミナー等の行事は、延17回開催し、参加者数は延882名を数えた。

オレオマテリアル部会は、関東地区と関西地区で講演会を開催するとともに、メールマガジンを3回発行した(総ページ数:16ページ)。界面科学部会は、関東、東海、関西、九州の各地区でセミナー・講習会を開催し、最新の研究成果の発表や研究者交流を行った。洗浄・洗剤部会は、第43回洗浄に関するシンポジウムを開催した。口頭発表14件、ポスター発表11件、一般講演2件を行った。オレオライフサイエンス部会は、第5回JOCs-ILSI(国際生命科学研究機構)ジョイントシンポジウムを開催するとともに、マスターズクラブと共同で、「どう理解する:トランス脂肪酸と健康」を刊行、講演会を開催することにより情報発信を行った。油脂産業技術部会は、部会セミナー、部会ワークショップの開催を通じて「油脂産業の未来」をテーマとした情報交流を行った。オレオナノサイエンス部会は、例年同様、オレオナノサイエンスシンポジウムを開催した。食品油脂機能構造部会は、油脂含有製品のミクロな構造と品質の関係についての部会セミナーを開催した。今後も、油化学会活動の基盤は専門部会活動が担うとの共通認識のもと、常に独自性、さらにグローバル視点も意識しながら学術専門分野の活性化・強化に努める。

各支部及び専門部会は、それぞれのリーダーの指導の下、独自に運営を行っているが、企画・部会統括委員長が年2回開催する全体会議で相互の情報交換などを行い、必要に応じスケジュール等の調整を行った。